

台風7号被害

地元建設業復旧に全力

足寄川氾濫 行政と連携し排水

本道に9年ぶりに上陸した台風7号の影響で、道内は17日夜にかけて各地で大雨となり、河川の氾濫に伴う住宅の浸水、暴風による建物被害が相次いだ。足寄町では増水した足寄川の水があふれ、付近の約40戸が床上まで浸水し、上勝管内の複数の建設会社が開建や建管と排水作業に尽力した。強い風が吹いた釧路・根室管内では建物の屋根が吹き飛ばなどの被害があった。

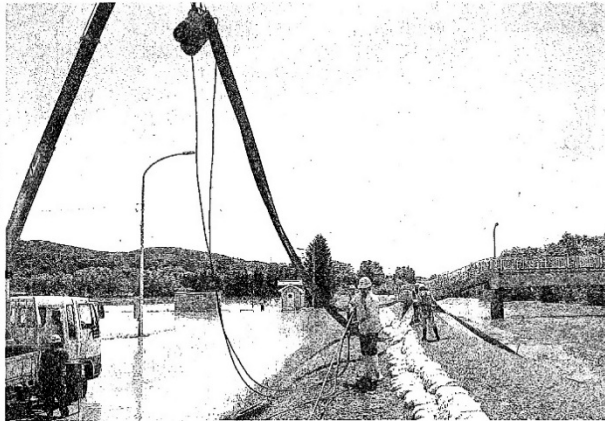
台風7号は、17日午後5時半ごろ樺太岬付近に上陸。道内は太平洋側を中心に17日夜まで強い雨が降った。16日午前0時から降り始め、18日正午までの雨量は、白老町森野で234.4mm、浦河町中杵臼で207.5mm、上士幌町ぬかひら源泉郷で197.1mmなど各地で大雨となった。釧路市では、台風が接近した17日午後7時45分に、観測史上最も強い43.2mmの最大瞬間風速を観測した。

足寄町内では、足寄川

西江建設(同)、野田組(本社・本別)、斎藤井出建設(本社・足寄)、道東建設工業(同)が対応した。18日未明から同建管足寄出張所の担当者や地元建設業者らが現地を巡回し、一刻も早い復旧に必要な対応を協議。現地の企業を中心に、作業を分担してポンプの手配や土の準備を進めた。パ

ンクボアや4インチソックのポンプを各戸に16台のポンプを各戸に分けて設置し、1ソックの土のうを足寄川沿い200mにわたって敷き詰め、18日夕方までにいすれの現場とも作業完了のめどが付いた。

被災建設工業(本社・帯広、宮坂建設工業(同)、安久津勝彦足寄町長は、「越水部分の水を引



き上げなければ正確な被害状況は把握できない。1分でも早く被災した方々も自分の家の状況を見たいはず」と話し、関係機関の連携した対応に感謝を示した。

網走開管内の十勝オホーツク自動車道では、

足寄町では浸水した市街地の水を利別川へ排水した

目録を打ち出しており、執行された予算の経済効果使途の拡大で高める狙いがある。

発注機関のうち中央省庁は、8月1日時点で新たに防衛省と財務省が加わり6機関となった。独立行政法人・道庁会社などの特殊法人では、導入する国立大学法人が増えたことにより、24機関が前払い金の使途を拡大した。

い警戒すること話している。

管内では、常呂川の上川沿観測地点で18日午前8時前から同日午後5時すぎまで氾濫危険水位を超え、網走開建が警戒監視を続けた。

釧路・根室管内では、釧路市の釧路商高で窓ガラス1枚が割れ、白糠町では庶路中学校の屋根が428平方メートル破損、窓ガラス2枚も壊れ、庶路小はグラウンドフェンスの一部が50センチにわたり倒壊した。このほか公住の屋根が飛散する被害が出た。

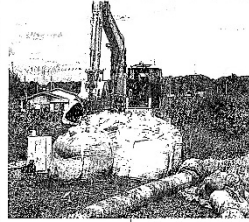
道によると18日午前6時現在、道道は道路冠水が4路線4区間、土砂崩れ・路肩決壊が8路線8区間ある。

台風7号で足寄川が氾濫

足寄町住宅地で冠水被害

建設業者が復旧に尽力

【帯広発】台風7号の影響で、十勝管内の各地で道路冠水や倒木などの被害があり、建設業者が復旧に奔走している。足寄町旭町では足寄川が氾濫し、出動した建設企業が、十八日午前十一時から排水作業に入り、午後三時三十分には排水作業を完了し、引き続く足寄川右岸側の一部から溢水した箇所など土の崩壊の作業を進めている。十勝管内では、十七日の夕方から夜にかけて、強風と激しい雨が降り続いた。十七日午後八時二十分、利別川で氾濫危険水位を超過し、足寄川では同日午後八時五十分、同水位を超えた。足寄町旭町では、十八日午前一時ごろ、住宅地に水



足寄川では、地元建設企業が応急処置として土のうを積んだ。

が流れ込み、最大で六、七十センチまで冠水した。その後、千本引いたものの、車が走行できない状況が続いた。足寄川を所管する帯広建設では、復旧作業に向けて、帯広建設業協会（萩原、利会長）に依頼し、利会長の指示で、利会員の建設業者が復旧作業に当たった。

旭町地区では、利会員の建設業者が復旧作業に当たった。旭町地区では、利会員の建設業者が復旧作業に当たった。



足寄町旭町が70cmほど冠水した。

2016.08.24 十勝毎日新聞

続く避難 復旧に懸命

足寄町旭町地区 宮坂建設など清掃奉仕



浸水した家屋の洗浄作業を行う高道専務（右）ら（23日、新井拓海撮影）

【足寄】台風7号による豪雨で浸水被害が起きた足寄町旭町地区では、避難指示が解除された23日以降も一部住民の避難が続いている。発生直後の18日から足寄建設業協会や河川管理者などが復旧作業を進める中、企業などのボランティア活動も行われ、帯広市の宮坂建設工業（宮坂寿文社長）も同地区で排水や家屋の洗浄作業を続け、住民の暮らしが元に戻るよう尽力している。

同地区は17日夜に足寄川の水が住宅地に流れ込み、住宅50棟が浸水。21日には、一時的な豪雨で再び冠水被害が起きた。同社は5月末から近くの足寄橋の改修工事を行っていたが、17日の大雨で作業を一時中断。旭町地区の浸水被害を見た同社社員らが町に「何か手伝えることはないか」と相談を持ち掛け、18日からボランティアとして約15人体制で復旧活動に取り組んでいる。

浸水が起きた18日は、口径8、6、4センチの各ポンプを計らう台車を使い、あふれた水を川に戻す排水作業を開始。水が引いた19日以降は、住宅敷地内の泥をスコップでかき出す作業や、4トントラックを4台動員して、処分対象となった家財道具などを銀河クリーンセンター（中足寄）まで運搬した。21日の大雨による冠水では再び排水作業を行い、住民の避難指示が解除された23日からは家屋の洗浄作業を開始。23日は同社グループ企業の登喜ホールディングス（タスキン）や、タスキン北一やまさき（タスキン）の社員ら6人が、フロアリングや壁などに消毒液を散布し、拭き取った後に再び消毒を行うなどしていた。

今回の大雨被害では旭町地区でヤマトホームコンビニエンス（東京）がグループホームの清掃をしたり、町内で自衛隊足寄分屯地の有志らが土のうを積んだりボランティアで復旧活動に取り組んでいる。

町は「役場の人員が足りない状況の中、積極的な活動は心強い」と感謝。同社の高道専務は「町からの要請に応じていきたい。非常事態なので少しも役に立つことができれば」と話している。（中島佑一）

河岸決壊箇所など復旧
水はけ後の清掃ボランティアも



め、帯広市が建協に排水作

【市況】台風の影響で、十勝管内では建設業者が復旧作業やポンプティアに奔走している。二十三日に帯広川に溜まった水を十勝川に排水している。

広連管庁管の上土町町内
更川堤防付近で河岸決壊延
長百尺を確認。建管が帯広
帯広建協会員企業
支援に機動力発揮

建設業協会（萩原一利会
長）に協力を要請し、（協平
出建設（土舘）が現場に駆
けつけ、足寄町旭町では、足寄川
の洪水で住宅地が浸水一十
九日付既報。常広建協の

け付けた。二十三日から異
形フロックの投入を進めて
いる。同日夕方に下流側に
呉、主宅地の水が溢れ、い

も一部、河岸決壊を免れ、
村土土建開闢工業(音)
排除された。しかし、道路
や住宅には、泥土が残り、
足寄町に本土を覆く音土土

幣広調建管内では、河川
の水位上昇に伴い、市街地
出建設がボランティアと
して、路面清掃を行った。

門百二十カ所のうち、二十五区は、帯広開建義注の「第二号定期町屋審議改良」を施行

工しており、足寄町役場に
求ランティヤを申し出た。
同社のグループ企業には、
このうち、木賊原樋門（裾
広市）のゲートを閉じた。

とに伴い、伏古別川から十勝川本川への流れる水が壊らなくとも、家庭に流入した土砂を取り除くこととされた状態となる。

高田伸吾務は「急な洪水で、家財道具等がほとんど使えなくなっている。少しでもお役に立ち、元氣になてもらえればと作業に汗を流した。

2016.08.26 北海道建設新聞

足寄町の被災
住宅で清掃奉仕

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）は23日、台風7号の利別川氾濫で床上浸水



に見舞われた足寄町旭町地区で被災家屋の清掃と消毒の奉仕活動をした写真。

同社は帯広開建発注の北海道横断自動車道陸別町日宗橋下部と国道242号足寄町足寄橋改良を施工中。現場近くでの惨状を聞き、支援を申し出た。

関連会社の清掃部門で
 あるダスキン事業部の作
 業員6人が泥水に浸った
 床を、消毒しながら拭き
 取った。この日は午前
 1戸、午後2戸で作業。
 住民の1人は「とても助
 かった」と話していた。
 また、地区内に敷き詰め
 られていた土のうの撤去
 にも8人が参加した。